



代表取締役会長
大西 實
大西 實



代表取締役副会長
宗雪 雅幸
宗雪 雅幸



代表取締役社長
古森 重隆
古森 重隆

21世紀を迎え、世界の人口は引き続き爆発的伸びを示し、現在の60億人強の人口が2020年に80億人、2050年に100億人を突破するものと見られています。このような中で化学物質による汚染対策、産業・生活廃棄物対策等々地球環境保全は今世紀の最優先課題であり、世界の企業にとって第一義的関心・関与をもつべき所の責務課題であります。さらには省資源・省エネルギーに向けての新技术の開発、進歩的施策の考察等にも地球規模の課題として、取組んでいかなければならないと考えます。富士フイルム21世紀最大の課題はまさしく「環境配慮・環境保全への取組み」であります。

従来から当社は以下の三点に重点をおいて環境施策に取り組んでまいりました。

自然環境に対する配慮(人間と自然の調和)

化学物質に関する安全の確保

ソースリダクション(有限な資源を無駄にしないこと)

そのための施策として当社はレスポンシブル・ケア(RC)を実践しております。RCは、製品の開発から製造、物流、使用そして廃棄に至るすべてのプロセスにおいて、企業が自身の方針、目標、基準そして責任において環境保全や安全確保を行っていくことを主旨とするものです。RCは世界の化学工業界が組織的に取組んでいる国際的な活動です。日本では1995年に日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)が結成されており、当社はその設立と同時に会員になるとともにRCの実施を宣言いたしました。同時に世界標準であるISO14001に従った管理システムを実践しております。当社は日本国内でISO14001の認証制度が発足する前から取組みを開始し、制度が運用された初年度(1996年度)に国内主力全4工場すべてで認証を取得いたしました。

最近では、このISO14001に則り化学物質取扱いのリスク管理を実施しております。化学物質取扱いの諸側面の中から、法律や化学物質の有害性に照らして懸念されるものを特定し、リスクの低減、あるいは回避のための実施プログラムを作成して、定期的に見直しを行っております。そのための基本ツールとして、当社で

は化学物質法規制及び安全性に関するデータベースを構築し、社内ネットワークを通じ、誰でも必要な情報を検索することができますようになっています。

またすべての環境負荷低減の基本となるソースリダクションにつきましても、

省資源製品設計

製品製造時に発生するロスの削減

製品使用時に発生する環境負荷の削減

回収部材のリユース・リペア(修理)による循環生産

という施策を実践しております。製品の品質や機能を維持、向上させつつ達成しなければならないため、技術的に高いレベルが要求されますが、そのチャレンジングな課題に積極的に取り組んでおります。当社ソースリダクションの代表例である「写ルンです」は、その先進的事例として評価をいただいております。2000年度も日本経済新聞社主催の「優秀先端事業所賞 ミレニアム特別賞」や(財)大河内記念会主催の「第47回大河内記念技術賞」を受賞いたしました。「写ルンです」に限らず、すべての製品の「環境配慮」を推進し、ソースリダクションを実践して参ります。

ソースリダクションへの取組みはまた、ゼロ・エミッションにも反映されております。生産用原材料から発生する廃棄物すべての再資源化は既に国内の主力全4工場で達成いたしました。2002年度末までには営業部門も含めた国内全事業所で、すべての廃棄物を対象としたゼロ・エミッションを達成する予定です。

当社は、経営トップの強いリーダーシップの下、「環境の持続可能性」(Sustainability)を重視して「環境・安全上健全であり続ける富士フイルム」の実現に向け、一人一人の社員、一つ一つの組織が自主的・継続的に環境保全の実現に取り組んでまいります。